



25
LEADING COMPANY

いまいさんぎょう
今井産業 株式会社

仕事に誇りと使命感を持ち
安心して住みよい地域をつくる

唯一無二を生み出す
建設業の醍醐味

一見、同じようなビルや道路に見えても、全く同じものは一つとしてない。地形や地質、街並みや気象条件など現場を取り巻く条件は工事ごとに異なり、使う工法や材料、道具も変わってくるからだ。「世界で唯一のものを造れる。それが建設業の醍醐味です」。《今井産業株式会社》の今井久師社長(60)の言葉は、誇りと使命感にあふれている。

創業は1928年。製材業と建設業を二本柱に成長し続けたが72年、記録的な江の川大水害で本社社屋と製材工場が被災。会社存続が危ぶまれる中、郷土復興への思いを胸に、建設業を柱にした事業を展開し始める。「社屋脇を流れる江の川水系八戸川の氾濫で、当社も何度も陸の孤島になっていきます。安心して住みよい地域を作るのが我々の仕事。しかし災害発生時には、寝食を忘れ、全力挙げて復興に力を注ぐ。暮らしになくってはならない。住。を通じて、地域を支える仕事です」。災害時の初動対応については国や県と協定を締結。要請に応じて現地パトロールなども実施している。

東京からの移動時間距離が全国で最も遠く、都市部への人口流出も進

む江津市。そんな不利な条件下を逆

手に取って、同社は早くから東京や広島へも進出している。当初所長含め2人しかいなかった2支店は現在、いずれも25人超の大所帯に。信頼を積み上げ、高層マンションや総合病院など数々の大規模建設の実績を重ねている。躍進の鍵を握るのが、挑戦心と先見性、そして地域への思いだ。「地域を守るためにも会社の発展と人材確保は欠かせない」と今井社長。守るために攻めるのだ。

5年後に創業100周年を迎えるのを前に現在、数々の社内プロジェクトが進行している。その一つが、屋台骨を支える人材の育成だ。年間平均10人以上の新入社員確保を目指す中、建設現場ではベトナムやモンゴル出身の高度人材計3人が、23年春からは自国で会計を学んでいたタイ出身の若者が同じく高度人材として経理部門で活躍している。「うちで技術を磨き、ステップアップしたのち、自国に帰る人もいるでしょう」。

そんな時、今井産業として彼らの国の事業も支援できれば。田舎の会社ですが、グローバルに羽ばたける会社でありたいと考えています」。入社後に高等技術校などで専門知識を学べる国内留学制度を整備するほか、ICTも積極的に導入。社員寮の新設も計画するなど、労働環境向上に

も力を入れる。

地域貢献は本業に留まらない。日本初の市街地レースとして注目を集めた《A1市街地グランプリGOTSU2020》の第2回開催を目指すほか、地元出身のスポーツ選手やチームの支援、石見神楽を継承する社員のサポートも積極的にしている。

高度経済成長長期に造られた多くの建設物が耐用年数を迎え、その対応が求められる一方、持続可能な社会づくりを背景に、建設業界のあり方が問われている。「メンテナンス力が問われる時代。DX化による省力化、効率化を推し進め、技術をバージョンアップしていく必要がある」。郷土の発展に益々力を注ぎ続ける。



2022年に江津商工会議所会頭に就任した今井社長。「オール江津で盛り上げていきたい」と地域振興にも注力する



今井産業 株式会社

事業内容

各種建設（土木・建築・舗装・一般住宅）工事、
アスファルト合材製造、宅地建物取引、
不動産賃貸、美術館運営、健康食品販売 など

創業 昭和3（1928）年10月10日
代表者 代表取締役 今井 久師
社員数 297名（男267名 女30名）
本社 島根県江津市桜江町川戸472-1
電話 0855-92-1321

採用エリア（勤務地）

江津市、浜田市、邑智郡、松江市、
広島県、東京都

採用担当者からあなたへ

社会の未来をつくるスケールの大きな仕事。そんな仕事を当社ではやっています。建設業界では、ICTの活用が急速に進んでいます。当社は、新たな建設業界を切り開いて行けるあなたの力を求めています。共に未来を創ろう！



総務部人事課 係長 堀 大造さん

資料請求・お問い合わせ先

採用直通 TEL

0855-92-1321

採用直通 E-mail

yasutaka.hikawa@imai-corp.co.jp

公式サイトはこちら



動画サイトはこちら



Instagramはこちら



国が定める工事関係書類が数多くある上、各協力会社との契約書や請求書作成など建設事務の仕事は幅広く、重要な役割を担う

「そこに道路やトンネルがあるのは当たり前じゃない」ってこと。たくさんの方の努力と技術、思いと時間をかけて造り出されたものなんですよ。そういうことをたくさんの方に分かりやすく伝えて、建築・土木業界に関心を持ってもらえればと思っています。

休みの日はどうしていますか。
沖田 半日は掃除でつぶれるかな（苦笑）。でも三連休の時は前日から県外に出向くこともありますね。
海司 大学時代からの推しアイドルを追い掛け、全国にでかけています。学生の時はバスでの移動がメインでしたが、今はお給料も頂いているので飛行機や新幹線を使っています。

原田 国内留学制度で2年間、給与を頂きながら職業技術校で学び、2級土木施工管理技士1次検定合格を始めた。複数の資格を取得しました。今は、3次元技術を活用した現場支援の仕事が多いのですが、将来的には現場監督なども経験していきたいです。若い時の苦労はきつと将来に



同僚たちの活躍や会社の事業を、SNSでリアル発信している海司さん（左）。親しみのある文章や工夫したカメラワークが好評だ

やりがいを感じるのは。
吉川 携わった仕事が地図に載ったり、形として残ったりするのはモチベーションにつながります。施工管理の仕事をしていて、人にもものを伝える大切さも実感。学生時代、コミュニケーションには自信がありました。現場で、業務がスムーズに進むよ

う伝えるのは大変。本当のコミュニケーション力が養われる職場です。
沖田 工事が完成して、お客さんに喜んでもらえた時は思った以上にうれしいです。僕が工事に関わったことを知る友人らから「完成した建築物を」見たよ」と言われると、やっぱり誇らしいですね。
海司 インスタグラム担当としていろんな情報を発信しているんですが、現場に行ったり、スタッフに話を聞いたりして改めて感じるのは、



建設現場ではICT機器の導入が進んでおり、安全性や生産性なども著しく向上している。知識や技術を持つ若手社員への期待は大きい

吉川 僕もアクティブ派。中学時代の友人とサッカーやプチ温泉旅行をするなどして動き回っています。
今後の目標を教えてください。
釜瀬 Uターンして異業種から転職したので、当初は知識が全くなく、同期もいなくて正直しんどかったですが、今は相談相手もできました。建設業経理士2級などの資格を取って、できるだけ現場を支援できる存在になれるよう努力したいです。
原田 国内留学制度で2年間、給与を頂きながら職業技術校で学び、2級土木施工管理技士1次検定合格を始め、複数の資格を取得しました。今は、3次元技術を活用した現場支援の仕事が多いのですが、将来的には現場監督なども経験していきたいです。若い時の苦労はきつと将来に

活けると信じています（笑）。
沖田 1級建築施工管理技士の資格を取り、地域のシンボルのような現場を回せる人間になりたいです。
佐々木 建設業って外で働くイメージが強かったんですが、想像以上に書類作成の作業が多くて、特に公共工事は官公庁に提出する書類が多岐に渡ります。少しでも現場支援できたらと強く思います。



今井産業ってこんな会社！
スタッフ座談会

土木部工務支援課
釜瀬 彩香さん
入社3年目

岡山県の病院検査技師から転身し、Uターン就職。工務課社員の動員管理や各種講習会手続きなどを担当。

建築工務本部・石見工務グループ工務課
沖田 侑輝さん
入社2年目

江津工業高校在学中に2級建築施工管理技士1次検定に合格。県西部を中心に建築現場で施工管理を担う。

土木部工務支援課
佐々木 恵美さん
入社2年目

保険やレンタル会社などの事務職を経て入社。各種書類作成などを担当し、現場所長をフォローする。

土木部技術推進室
原田 棕介さん
入社4年目

入社後、職業技術校で2年間、専門知識や技術を学ぶ国内留学制度を活用。ICT技術の活用に意欲的だ。

総務部（情報機器管理）
海司 優さん
入社2年目

徳島県出身。大学生活を送った島根で就職した。昨年SNS担当を引き継ぎ、フォロワー数を伸ばしている。

建築工務本部・松江工務グループ工務課
吉川 夕風さん
入社4年目

建築現場で、工程管理や調整、施工手順の検討などを担当。職人らとのコミュニケーションにも注力する。

なぜ今井産業を職場に選んだんですか。

吉川 本当は一人暮らしがしたくなく、県外での就職を考えていたんですが、なかなか見つからなくて。改めて親と一緒に県内企業を探した時、当社に遭遇。名も知れていますし、親もイチ押しでしたね。
海司 出身は徳島。島根県立大学で4年間地域経営を学ぶうちに、人が温かくて、魚を始め食べ物がおいしい島根が大好きに。第二の故郷とも言える場所で働くことを決めました。
沖田 小さい頃からレゴブロックとかで形を作っていくのが好きで。工業高校で建築を学び、現場監督という仕事を学びました。当時、当社が建設中だった江津市庁舎は、何度も見に行きました。
佐々木 実は当社がら社目。前社での派遣契約が終わり、次の仕事を探していた時に、たまたま地元金城町でトンネル工事中だった当社が事務員を募集しているのを知って。今井

建設現場は大変というイメージもありますが。

原田 3次元測量システムを活用した設計データの作成など、想像以上にICT化が進んでいてびっくりです。過去の工事内容を確認すると、すごい量の紙が出て来て。今ならパソコンで計測してデータをパソコン送信すれば半日程度で済む作業が、以前はかなりの時間をかけて計算や作成していたんだと改めて感じます。
吉川 出雲市多伎町に今春オープンした複合施設の大規模プロジェクトに、初めて現場監督として参画。一時は「かりんとう」とからかわれるほど真っ黒になりました。スケジュールや職人さんの管理から図面引きや、現場指揮まで本当に大変



「仕事量が多いし、現場は大変だけど、無事完成して形が出来た時の達成感は半端ない。建設業の醍醐味です」と笑う吉川さん

で、納期に余裕もなかったもので、上がった時には正直嬉しさよりプレッシャーからの解放感の方が大きかったですね（笑）。でもその後、施設が話題になっているのを聞くとやっぱり誇らしいです。
沖田 入社当初、延べ6000人以上の作業員が関わる総額8億円の大工事に携わりました。屋根の鉄骨工事を担当したのですが、現場と各部署を作る工場を行き来して、大変でした。高校で学んだ建築と現場はまるで違って。ホント毎日勉強です。
佐々木 入社当初に配属されたトンネル工事の現場事務所は男性7人で女性は私一人。女性比率が低いせいか、皆さんとっても優しく。各種書類や掲示物を作成したり、請求書などの処理をしたりしていますが、聞くと丁寧に教えてくれるので、仕事もしやすいです。



現場では、各部署の社員がさまざまな形で関わるほか、外部の協力業者も多く、密なコミュニケーションが欠かせない